

委員会活動報告

1. 緩和医療ガイドライン委員会活動報告

緩和医療ガイドライン委員会

委員長 太田 恵一郎

副委員長 細矢 美紀

副委員長 余宮 きのみ

前回ニューズレター掲載以降の各 WPG の活動内容をご報告いたします。

1) 泌尿器症状ガイドライン作成 WPG

(WPG 員長) 太田 恵一郎

(WPG 副員長) 津島 知靖、三浦 剛史

2016 年 6 月の発刊を目指して、最終の作業を行っている。

一般社団法人 日本泌尿器科学会、一般社団法人 日本癌治療学会、一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人 日本緩和医療薬学会、一般社団法人 日本がん看護学会に外部評価委員の推薦を依頼し、理事会の承認を経て、決定された。

背景知識の性機能の部分については、日本性機能学会に執筆者の推薦を依頼し、理事会の承認を経て、決定された。

第 2 回デルファイ会議を経て、最終原稿を確定し、外部評価委員、理事、代議員の皆様の評価をいただいて、発刊の予定です。

▶ 進捗状況

◇2015年10月31日 第1回デルファイ会議

◇2015年12月 修正原稿提出、デルファイ作業

◇2016年 1月17日 第2回デルファイ会議

▶2016年6月の発行を目指している。

2) 呼吸器症状ガイドライン改訂 WPG

(WPG 員長) 田中 桂子

(WPG 副員長) 山口 崇

(1) 改訂版のポイント

Minds ガイドライン作成の手法を遵守しながら改訂作業を進めており、予定通り 2016 年 6 月の発刊の予定です。改訂版の主な変更点は、①現在の「関連する特定の病態の治療」(悪性胸水、咳嗽、死前喘鳴)について最新の文献レビューを行い、推奨文を作成する、②現在の推奨部分について、再度最新

の文献レビューを行い最新データにアップデートする、③今回の改訂に伴って必要となるその他の項目(薬剤の説明など)の修正・加筆をすることである。

(2) 進捗状況

①推奨文については、外部のデルファイ委員(一般社団法人 日本癌治療学会、一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人 日本がん看護学会、一般社団法人 日本緩和医療薬学会、一般社団法人 日本呼吸器学会、一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン(患者家族代表)から推薦された委員)に評価していただき、2回のデルファイ(1回は対面会議、2回目は ML 上)で基準を満たす収束が見られ、確定した。

②背景部分については、現在分担執筆中であり、12月中旬に完成予定である。

③その他の部分(文献、用語解説、始めに、今後の課題等)について、順次作成中である。

④外部委員として、当学会内より医師、看護師、薬剤師各1名、特定非営利活動法人 日本肺癌学会、一般社団法人 日本癌治療学会、一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会より各1名、計6名を推薦いただき、正式に依頼をした。

⑤推奨内容、作成プロセスに関して、海外ジャーナルに投稿を予定しており英文化作業も並行して進めている。

(3) 今後の予定

2016年1月中旬にすべての原稿を完成し入稿予定である。外部評価委員、理事、代議員の皆様の評価を受けたのち、6月の発刊予定である。

2. 緩和ケアに関する研究助成の拡大

学術委員会

委員長 内富 庸介

これまで本学会は「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」、「苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン」、「がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン」、「がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン」、「終末期がん患者に対する輸液治療のガイドライン」などを発行してきました。今後緩和医療の質をさらに高めてゆくために、ガイ

ドラインを支えるエビデンスによる裏打ちが充分ではない領域において研究助成し、学術委員会で審査し、学会として取り組むに相応しい研究を選定し研究費を助成します。

研究課題①は、ガイドラインにおいてエビデンスが充分ではない領域における検証的な研究です。研究課題②は、緩和ケアに資する研究であれば、手法や目的を問いません。候補者は研究課題に積極的に取り組み、英文で原著論文を執筆することができる本学会の会員です。

研究課題①は大幅に増額しました。1件あたり400万円以内(1件)。

研究課題②は新設です。1件あたり50万円以内(2件)。

研究の成果は学術論文として公開しなければなりません。その場合、「日本緩和医療学会の助成を受けた」旨の表示ならびに邦文名(日本緩和医療学会研究推進助成)、英文名(Grant for Research Advancement on Palliative Medicine, Japanese Society for Palliative Medicine)の記載をし、支給開始年度の4年以内に学術論文もしくは本学会学術大会で研究の成果を発表します。

研究助成の拡大がきっかけに緩和ケア領域のエビデンスが産出されることを期待します。